

商業

東西の輸  
入貨

主なる輸  
出品

教育

省會たる烏魯木齊は、省内他の都會よりも、商業繁盛なるべき筈なるに、其實は然らず。是れ全く地理の然らしむる所なるべし。而して商業の權力は二つに分る。即ち城内は天津商に、城外は纏頭商に歸せり。漢人は貨物を二道より運ぶ。一は甘肅省を経て送致せしむる反物類、所謂四川繡緞及雜貨(甘肅の水煙、絨、砂糖等)等を主とし。他は天津、北京を發し、張家口、歸化城を過ぎ、沙漠を通じて齎らす洋貨類、所謂金巾、卷煙草、香水、時計、針、綿緞子、糸、羅紗、手巾、陶器、靴、襪子、足袋、海藻、干魚、干菜類等にて、前者は沿道税關多きが故に、其の價格二倍と爲り、後者は沙漠帯を通じ關稅なきが故に前者に比し二、三割の廉價とす。纏頭商は主として露貨を販賣す。露國輸入品は、金巾、更紗、綿緞子、毛布、絨、『マッチ』洋蠟、洋酒、鐵葉製器具、燈心、藥罐、陶器、時計、卷煙草、等其の主なる者にして、賣價は同一の品なれば殆んど清貨と大差なし。輸出品の主なるものは、羊皮、羊毛、石炭、石膏、硝石、鹽、鹿角、虎皮、狐皮、等にて、東來の貨物は、更に是より塔城、伊犁に及び、吐爾番を経て南路全部に擴まる。西來の露貨にして、吐魯番、哈密に到るものは、此地に卸さず、直に彼の地に送らる。

教育としては、唯一の高等學堂あるのみにて、生徒は現に四十餘人、其の年齢は十